

2020 年度事業計画

(1) 基本的な考え方

- ア ピアソン記念館指定管理者として市民の期待に応える記念館の管理運営を行う。
- イ ピアソン宣教師夫妻の足跡・功績を掘り起こし明らかにする研究活動を充実する。
- ウ ピアソン記念館の歴史的意義、北海道遺産選定施設としての広報 PR 活動を充実する。
- エ 研究成果等を公開する企画展の実施及び常設展示の充実とレプリカ等保存方法を改善し、充実する。
- オ 各種関係団体と積極的に情報交流を行う。「ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク」の構成組織として積極的に活動する。また、北海道遺産施設として更なる北海道観光等に貢献する。
- カ 会員組織を拡充し組織力及び財政基盤を充実強化する。
- キ グリーンコンサート、リードオルガンコンサート、文化サロン de ピアソンなど自主事業を開催する。
- ク 「音声ガイド」など外国人へのサービス向上のため、地域への普及など各関係団体への働きかけを積極的に行う。また、北見観光協会の会員として北見の観光に貢献する。
- ケ 北見地域への貢献として、ピアソン会の有する専門的技術・知識等を必要とする施設への協力。

(2) 事業計画

- ア 「指定管理受託事業」の継続
 - 北見市から指名を受けた指定管理者として、北見市指定文化財及び北海道遺産の選定施設としての意義を正しく伝えると共に、記念館の適正な管理運営業務にあたる。
- イ 「出版事業」の継続
 - ピアソン記念館に展示している収蔵資料の各種研究調査を継続し、ピアソンブックレット出版にむけて取り組む。本年はピアソン会活動 20 周年活動記録電子版を発行する。また、ピアソン便り縮刷版『ピアソン便り第 61 号から第 90 号』を発刊予定。
- ウ 「展示物の充実」の推進
 - 二階展示物をアクリルフレームを使用し充実させる。
 - ①姉妹都市エリザベス市関連の資料整理（故小池牧師寄贈資料）を継続し、その資料を元に仮題『姉妹都市エリザベス市とピアソン宣教師』リーフレットを作製する。
 - ②順路案内のための平台スタンドの設置。
- エ 「ふれあい事業」の継続
 - 会報「ピアソン便り」を充実させ年 6 回の発行を定着させる。またピアソン会のホームページと、ピアソン記念館のホームページの差別化をはかり、さらに充実させる。
 - また、「ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク」及び「北海道遺産」の各関係団体との交流を積極的に進める。
- オ 「コンサート事業」の継続
 - グリーンコンサート、リードオルガンコンサートを市民に定着した開かれたコンサートとして開催する。また、前庭・展示室を活用してのボランティアコンサートの継続にむけて取り組む。
- カ 「文化サロン de ピアソン」の実施
 - ピアソン記念館が柏樹荘と呼ばれた時代の文化芸術の活動に学び、文化活動事業を自主事業として継続的に開催する。また、仮称「ピアソン学講座」としてピアソン資料を学ぶ研究会を発足させる。
- キ 「その他の事業」
 - (1) ピアソン会の中に「ハーブ研究部会」を設置し、ピアソン記念館前庭の花壇造りを積極的に行い、魅力ある花壇を造り、その中から記念になる押花やリース作製を継続する。また、北見クリスマスツリー発祥の館として、幼児たちの手づくりクリスマスツリー展示を実施。
 - (2) 北見市指定文化財として、ピアソン邸台所の復元に向け（観光用トイレの充実、及び大型バスの乗降場設置を含む）での研究調査を継続し、あらゆる努力をする。